

全国商品取引所出来高

1月、ゴム、粗糖、貴金属が活発

全国7商品取引所の1月の月間出来高は、前年同月比11.5%減だった。昨年12月は1年9カ月ぶりに前年同月比増に転じたが、再びマイナスに。その中で東工取のゴムは前年同月比3.6倍、東穀取の粗糖は4.6倍と、長年、高い不振続きだった反動が出ている形。出来高トップの金をはじめ、白金、ガソリン、パラジウムも活況が続いている。取引所別では、東工取が同27.1%増。

なお、平成17年1~12月の約定金額は210兆2,281億円で、前年に比べ30兆6,630億円(12.7%)減少した。

商品別・取引所別出来高順位表(単位:枚・%,平成18年1月)

順位	商品名	取引所名	出来高	平成17年1月	前年比	前年同月順位	前年同月比順位の上下
1	金	東工取	1,853,039	1,373,288	134.9	(2)	↑
2	ガソリン	〃	1,392,139	1,387,630	100.3	(1)	↓
3	Non-GMO大豆	東穀取	899,930	809,817	111.1	(5)	↓
4	白金	東工取	874,586	604,110	144.7	(7)	↑
5	ゴム	〃	799,465	218,578	365.7	(10)	↑
6	灯油	〃	679,244	802,581	84.6	(6)	→
7	灯油	中部取	528,767	1,371,536	38.5	(3)	↓
8	ガソリン	〃	475,083	1,104,367	43.0	(4)	↓
9	とうもろこし	東穀取	327,250	553,077	59.1	(8)	↓
10	アラビカコーヒー生豆	〃	243,693	509,090	47.8	(9)	↓
11	原油	東工取	144,805	147,566	98.1	(13)	↓
12	一般大豆	東穀取	131,957	152,616	86.4	(11)	↓
13	粗糖	〃	111,953	24,375	459.2	(24)	↑
14	銀	東工取	72,035	57,769	124.6	(16)	↑
15	小豆	東穀取	49,799	32,975	151.0	(23)	↑
16	ゴム(RSS3)	大阪取	39,748	46,002	86.4	(19)	↑
17	ロブスタコーヒー生豆	東穀取	36,191	40,016	90.4	(21)	↑
18	パラジウム	東工取	36,036	15,074	239.0	(30)	↑
19	アルミニウム	〃	22,306	13,960	159.7	(31)	↑
20	とうもろこし	福岡取	21,609	135,877	15.9	(14)	↓
21	ゴム指数	大阪取	19,539	36,907	52.9	(22)	↑
22	冷凍えび	関西取	18,770	149,968	12.5	(12)	↓
23	コーヒー指数	〃	10,388	54,066	19.2	(17)	↓
24	アルミニウム	大阪取	8,724	80,094	10.8	(15)	↓
25	ゴム(TSR20)	〃	6,031	53,670	11.2	(18)	↓
26	鉄スクラップ	中部取	3,531	—	—	(—)	—
27	日本生糸	横浜取	1,614	15,559	10.3	(28)	↑
28	鶏卵	中部取	1,481	13,740	10.7	(32)	↑
29	野菜	横浜取	1,423	42,420	3.5	(20)	↓
30	国際穀物等指数	関西取	1,330	24,271	5.4	(26)	↓
31	Non-GMO大豆	福岡取	990	6,710	14.7	(34)	↑
32	ニッケル	大阪取	915	9,842	9.2	(33)	↑
33	Non-GMO大豆	関西取	686	5,408	12.6	(35)	↑
34	大豆ミール	福岡取	666	16,367	4.0	(27)	↓
35	軽油	中部取	663	15,389	4.3	(29)	↓
36	小豆	関西取	663	861	77.0	(40)	↑
37	粗糖	〃	549	561	97.8	(41)	↑
38	プロイラー	福岡取	463	3,448	13.4	(37)	↓
39	生糸	関西取	442	540	81.8	(42)	↑
40	IOM一般大豆	福岡取	371	4,210	8.8	(36)	↓
41	大豆ミール	東穀取	245	1,039	23.5	(39)	↓
42	精糖	〃	222	222	100.0	(45)	↑
43	精糖	関西取	222	222	100.0	(45)	↑
44	じゃがいも	横浜取	172	24,304	0.7	(25)	↓
45	精糖	福岡取	111	111	100.0	(47)	↑
46	軽油	東工取	2	1,681	0.1	(38)	↓
	合計		8,819,848	9,962,895	88.5		↓

取引所別出来高

(単位:枚・%)

取引所	平成18年1月(A)	前年同月計(B)	(A)/(B)
東京工業品取引所	5,873,657	4,622,237	127.1
東京穀物商品取引所	1,801,240	2,123,227	84.8
中部商品取引所	1,009,525	2,505,032	40.3
大阪商品取引所	74,957	226,515	33.1
関西商品取引所	33,050	235,897	14.0
福岡商品取引所	24,210	167,192	14.5
横浜商品取引所	3,209	82,795	3.9
合計	8,819,848	9,962,895	88.5

【(社)全国商品取引所連合会調べ】

日経商品先物シンポ 開催

『商品の時代』到来で論議

当協会など4団体が協賛

日本経済新聞社は日本商品先物振興協会など4団体の協賛を得て、1月10日、東京・大手町の経団連ホールで「日経商品先物シンポジウム『商品の時代』—原油・一次産品高騰と企業経営・資産運用—」を開催した。まず、著名な投資家ジム・ロジャーズ氏が基調講演を行い、次いで、岡藤商事加藤雅一会長など5氏が志田富雄日本経済新聞社編集局商品部編集委員の司会でパネルディスカッションを行った。以下、概要を報告する。

基調講演

『商品の時代』をどう生きる

ジム・ロジャーズ氏

2017~2018年まで強気相場続く

理解すべき中国の台頭
第1に理解すべきことは中国の台頭です。19世紀はイギリスの時代、20世紀はアメリカの時代でしたが、21世紀は中国の世紀になるでしょう。

ドルは欠陥のある通貨

もうひとつ忘れてはならないことは米ドルです。米ドルは外貨準備の媒体となっていました。これが変わろうとしています。米ドルは大きな欠陥を持った通貨といえます。1987年、米国は債権国でしたが、いまは最大の債務国で、世界

株式のブル状況は終わる

もう一つ、大きな意味を持つものに、金融市場があります。80年代、90年代、欧米において、株式

商品にはチャンスあり

ただ、コモディティという英語の綴りを知らない人もいます。25年前を振り返って見ますと、西洋諸国では「ニューチャルファンド(株式投信)」といっても知らない人が多かったのですが、現在の商品の状況はそのころの株式の状況と同じです。

供給減り、需要増加

80年代、90年代、債券、株式市場は強気相場で、商品相場は悪かった。生産能力に投資しようという人はいませんでした。そこで、20年、25年かけて供給が狭まってきました。鉱物、石油は枯渇していきます。25年間、供給は下がってきましたが、需要は上がってきました。これが強気相場のマーケットにつながる。 (3面へつづく)

ジム・ロジャーズ氏略歴

1942年生まれ。イェール大学卒業後、オックスフォード大学ベルオール・カレッジ修了。ジョージ・ソロスと共同で国際投資会社クオンタム・ファンドを設立。10年間で4,000%を超えるリターンを実現。37歳で引退し世界を回る傍ら、コロンビア大学で教鞭をとる。98年商品先物指数である「ロジャーズ国際コモディティ指数」を創設。05年、日本経済新聞社から『商品の時代』を刊行。



「経済学を教えるのではなく、経済を教える。まず、物の価格形成を手始めに先物取引へと進む。米国に大型ハリケーンが襲って原油価格がなぜ上がるのか—」など生きた経済を分かってもらいたい」と寄附講座の役割を説明する帝京大学経済学部・黒崎誠講師。

先物協会 寄附講座めぐり ④

生きた経済教える 先物取引理解から

ベンチャーへ



研究室の黒崎講師

研究室の黒崎講師は、ベンチャーへは、もっと儲けたと残念がったという。すべてのグループが損を出さなかったのが特長だった。最低の成績だったグループ

帝京大学 経済学部

黒崎 誠講師

「具体的には20数人の受講生をグループに分けて、手元資金3,000万円、6月、9月まで日本市場での先物取引のバーチャル(仮想)売買に取り組んだ。その結果、原油を大量に買ったグループが4億6,000万円ほど儲けた。ただ、8月末に手じまったので、それがなけれ



グループで熱心な話し合い